

# 長畝ふるさと通信

【2017年2月号】

## ■ 29年作付計画

平成29年度の作付計画ができました。トキ認証コシヒカリが中心であることは間違いないのですが、生産調整による転作率(お米を作らない田んぼの率)は年々増えており、コメ専業農家なのに持つる田んぼの半分近くがお米を作れないなんて、殺生な世の中です。酒米やもち米も実需が減少する一方で(日本酒飲まない、もち食べないってことです)2年前から比べると半分近い面積しか作ることができません。先月号でもご紹介しましたが、JAが今春から取り組む佐渡和牛の繁殖支援施設にWCS(ホールクロップサイレージ:稲醗酵粗飼料)を提供することになり、7haほど作付します。日本人の心「米、酒、もち」が減少して、牛のエサをつくる羽目になろうとは・・・日本の農業は本当にこれでいいのだろうか？



<長畝の田んぼを作付品種別に色分けした地図。ピンク色がコシヒカリです>

## ■ いつでも始動できます



冬の間には格納整備されたトラクターたちもすべて準備OK。3月の2週目あたりから畦塗り、耕耘作業が始動します。今年も雪は少なく、田んぼには全く雪もありません。春はすぐそこまで来ている。

## ■ 東京でコメ商談会 ブランド合戦過熱！

2月26日、東京錦糸町で開催された「生産者・JAと流通業者との米の商談会」に出店しました。平成30年から国がコメの生産調整をしなくなることから、各産地は生産過剰による価格低迷に不安の色が隠せません。そんなことが影響してか、今回の商談会は出店数も過去最多であったと思



います。各ブースには商品名の入ったのぼりがズラ〜と並び、それだけ見てはどこの産地のお米かわからないほど多種多様です。試食をしてみてもはっきりとした特徴があるような、ないような・・・

そんな中、ある業界関係者の方から「日経レンディー」という雑誌のコピーを頂きました。「今一番食べてほしいお米は」という企画で、お米の専門家である五つ星お米マイスター77人が推薦した160品種の中から、得票数で上位に選出された9銘柄を最終審査にノミネートし、その中から1番を決めるというものです。残念ながら佐渡の「朱鷺と暮らす郷」は一番にはなりませんでした、しっかりと上位9銘柄には入っていました(正直うれしい)。

ノミネートされた9銘柄は次の通りです。

- ①北海道・空知産「ゆめぴりか」
- ②新潟県・佐渡産「朱鷺と暮らす郷」
- ③岐阜県・飛騨産「銀の朧(みかづき)」
- ④兵庫県・但馬産「蛇紋岩こしひかり」
- ⑤佐賀県・相知産「さがびより」
- ⑥岩手県・県中産「銀河のしずく」
- ⑦山形県・庄内産「つや姫」
- ⑧茨城県・ひたちなか産「プレミアふくまる」
- ⑨千葉県・匝瑳産「匝瑳(そうさ)の舞」

栄えある「1番」はどこの産地だったでしょう。これ以上詳しくはご紹介しませんので悪しからず・・・

日本のコメ離れは深刻です。「食の多様化」の一言では片づけられない問題ではないでしょうか。田んぼは「コメの生産工場」ではなく、日本の食文化と国土を保全する大切な財産だと思っています。佐渡ではトキが200羽も野生下で生息していますが、彼らは田んぼなしでは生きられないのです。そんな目線も大切ではないでしょうか。

春日和の海と山もいいでしょ。

